

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2010-273402

(P2010-273402A)

(43) 公開日 平成22年12月2日(2010.12.2)

(51) Int.Cl.	F I	テーマコード (参考)
H02B 3/00 (2006.01)	H02B 3/00 D	
F16M 11/24 (2006.01)	F16M 11/24 D	
H02B 1/30 (2006.01)	H02B 1/08 P	

審査請求 未請求 請求項の数 7 O L (全 10 頁)

(21) 出願番号	特願2009-120944 (P2009-120944)	(71) 出願人	000243803
(22) 出願日	平成21年5月19日 (2009.5.19)		未来工業株式会社
			岐阜県安八郡輪之内町楡俣1695番地の1
		(74) 代理人	100068755
			弁理士 恩田 博宣
		(74) 代理人	100105957
			弁理士 恩田 誠
		(72) 発明者	加納 一啓
			岐阜県安八郡輪之内町楡俣1695番地の1 未来工業 株式会社内

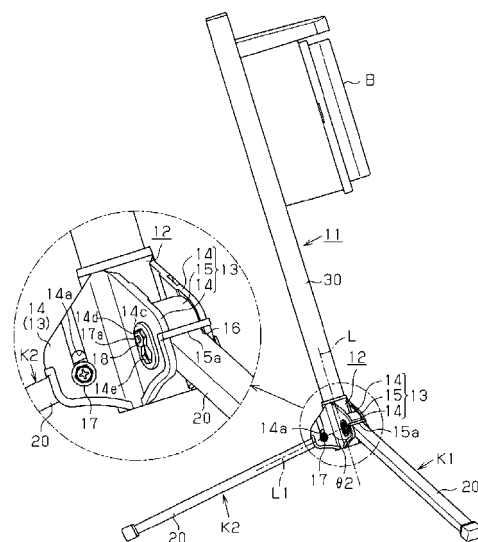
(54) 【発明の名称】 配電函支持具及び配電函の支持構造

(57) 【要約】

【課題】 設置スペースを十分に確保することなく設置することができるとともに、設置及び設置位置の変更を容易に行うことができる配電函支持具及び配電函の支持構造を提供する。

【解決手段】 配電函支持具11は配電函Bが側方に取り付けられる支柱30と、支柱30の下部に取着された基部12と、基部12に設けられた3つの支持脚取付部13それぞれにボルト17によって回動可能に支持された3本の支持脚20と、を備える。各支持脚20は、未開脚位置と、支柱30の軸線Lと各支持脚20の軸線L1との間に形成される鋭角側の傾斜角度が第1の傾斜角度となる第1の開脚位置K1と、に変位可能である。さらに、配電函支持具11は、1本の支持脚20を第1の傾斜角度より大きい第2の傾斜角度 θ_2 に傾斜させた第2の開脚位置K2に位置させ、支柱30を第2の開脚位置K2にある支柱30寄りに傾斜させて支持することができる。

【選択図】 図4



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

配電函が側方に取り付けられる支柱と、
該支柱の下部に取着された基部と、
前記支柱を支持するために、前記基部に設けられた 3 つの支持脚取付部それぞれに支軸によって回動可能に支持された 3 本の支持脚と、を備え、
各支持脚が、前記支柱の軸線に沿って各支持脚の軸線が延びる未開脚位置と、
前記支柱の軸線と各支持脚の軸線との間に形成される鋭角側の傾斜角度が第 1 の傾斜角度となる第 1 の開脚位置と、に変位可能であり、全ての支持脚を前記第 1 の開脚位置に位置させることで前記支柱が鉛直に延びるように支持され、
さらに、前記支柱を前記 3 本の支持脚のうちの 1 本寄りに傾斜させて支持するための支柱傾斜手段を前記支持脚取付部又は前記支持脚に備える配電函支持具。

10

【請求項 2】

前記支柱傾斜手段は前記支持脚取付部に設けられ、前記 1 本の支持脚の前記傾斜角度を前記第 1 の傾斜角度より大きくした第 2 の傾斜角度で傾斜させた第 2 の開脚位置に変位させるものである請求項 1 に記載の配電函支持具。

【請求項 3】

前記支持脚取付部の全てに前記支柱傾斜手段が設けられ、全ての前記支持脚が前記第 2 の開脚位置に変位可能に形成されている請求項 2 に記載の配電函支持具。

【請求項 4】

前記第 2 の開脚位置は、前記第 2 の傾斜角度が略 90 度となる位置である請求項 2 又は請求項 3 に記載の配電函支持具。

20

【請求項 5】

前記支持脚は、該支持脚の上部側が前記支持脚取付部に形成されたガイド溝内で回動可能に支持されており、

前記支柱傾斜手段は、前記ガイド溝の上部内側面に形成され前記第 2 の開脚位置にある前記支持脚の上側面が当接することで該支持脚の回動を規制する当接部と、

前記当接部に当接した支持脚を前記第 2 の開脚位置まで回動させる位置に前記支軸を支持可能とするため前記支持脚取付部に形成された長孔と、からなる請求項 2 ～請求項 4 のうちいずれか一項に記載の配電函支持具。

30

【請求項 6】

前記基部には前記支柱が貫通可能な貫通孔が形成されている請求項 1 ～請求項 5 のうちいずれか一項に記載の配電函支持具。

【請求項 7】

配電函が側方に取り付けられる支柱と、該支柱の下部に取着された基部と、前記支柱を支持するために、前記基部に設けられた 3 つの支持脚取付部それぞれに支軸によって回動可能に支持された 3 本の支持脚と、を備えた配電函支持具を用いた配電函の支持構造であって、

前記支柱を 3 本の支持脚のうちの 1 本の支持脚寄りに傾斜させて支持するとともに、傾斜した支柱に対し、前記 1 本の支持脚と反対側に前記配電函が位置するように該配電函を前記支柱の側方に取り付ける配電函の支持構造。

40

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、工事現場での工事用電源を既設の電柱から引き出すために設けられる配電函を支持する配電函支持具、及び該配電函支持具を用いた配電函の支持構造に関する。

【背景技術】**【0002】**

工事現場では、既設の電柱の近傍に仮設ポールを設置するとともに、仮設ポールに配電函を取り付け、この配電函に電柱からケーブルを引き込んで工事用電源を確保している。

50

例えば、特許文献 1 に開示されるように、仮設ポール（特許文献 1 では配線用ポールと記載）は、円筒形状の下柱と上柱とを連結円筒体で連結して形成され、下柱の下端部が地中に埋設されることによって設置される。しかし、仮設ポールは、重い配電函が取り付けられても倒れないようにするため、下柱の下端部は深く掘られた穴に埋められており、仮設ポールの設置作業が非常に面倒なものであるとともに、仮設ポールの位置変更も非常に面倒なものであった。

【0003】

そこで、配電函を支持する支持具の設置及び設置場所の変更を容易にしたものとして、特許文献 2 に開示の折り畳みスタンドが挙げられる。この折り畳みスタンドは、一対の脚と、両脚を連結する連結材とからなり、各脚は、配電函の取付用の取付片を備えている。また、各脚は、上端において回動自在に連結された一対の支柱と、一方の支柱に一端が回動自在に支持され、かつ他方の支柱に設けられた被形成部に他端が係止自在とされた回動連結材とから形成されている。

10

【0004】

また、上記連結材は一対の棒材の中央部同士を回動自在に連結した X 字状をなす。各棒材の一端が一方の脚に、他端が他方の脚にそれぞれ回動自在に連結されているとともに、各棒材の少なくとも一端が脚における支柱の長手方向に揺動自在かつ固定自在とされている。

【0005】

そして、両脚を所定の開き角度となるようにするとともに、両脚の間隔が必要とする値となるまで連結材を開いて固定することにより、折り畳みスタンドは自立する。さらに、両脚の取付片それぞれに配電函を取り付けることにより、配電函が折り畳みスタンドによって支持される。よって、折り畳みスタンドは、仮設ポールのように下端部を地中に深く埋設する必要がないため、折り畳みスタンドの設置を容易に行うことができるとともに、容易に運搬することができるため、折り畳みスタンドの設置場所の変更を容易に行うことができる。

20

【先行技術文献】

【特許文献】

【0006】

【特許文献 1】特開 2004-69632 号公報

30

【特許文献 2】特開昭 63-318394 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0007】

ところが、特許文献 2 の折り畳みスタンドは、自立させるために側面視が二等辺三角形の両脚を、所定の間隔まで互いを離間させ、さらに、各脚の両棒材を開くことで自立可能になっている。また、配電函は、両脚に設けられた取付片を用いて折り畳みスタンドに支持されるため、配電函は両脚に跨る状態で折り畳みスタンドに支持される。このため、折り畳みスタンドは、自立のために工事現場で設置スペースを十分に確保しなければならない。しかも、折り畳みスタンドにおいては、一対の脚に配電函が跨る状態で取り付けられるため、配電函の周りにも両脚の上部が位置して配電函の周りにも設置スペースを確保しなければならない。よって、特許文献 2 の折り畳みスタンドは、設置スペースを十分に確保した工事現場でなければ設置できないという問題があった。

40

【0008】

本発明は、このような従来の技術に存在する問題点に着目してなされたものであり、その目的は、設置スペースを十分に確保することなく設置することができるとともに、設置及び設置位置の変更を容易に行うことができる配電函支持具及び配電函の支持構造を提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【0009】

50

上記問題点を解決するために、請求項 1 に記載の発明は、配電函が側方に取り付けられる支柱と、該支柱の下部に取着された基部と、前記支柱を支持するために、前記基部に設けられた 3 つの支持脚取付部それぞれに支軸によって回動可能に支持された 3 本の支持脚と、を備え、各支持脚が、前記支柱の軸線に沿って各支持脚の軸線が延びる未開脚位置と、前記支柱の軸線と各支持脚の軸線との間に形成される鋭角側の傾斜角度が第 1 の傾斜角度となる第 1 の開脚位置と、に変位可能であり、全ての支持脚を前記第 1 の開脚位置に位置させることで前記支柱が鉛直に延びるように支持され、さらに、前記支柱を前記 3 本の支持脚のうちの 1 本寄りに傾斜させて支持するための支柱傾斜手段を前記支持脚取付部又は前記支持脚に備えることを要旨とする。

【0010】

請求項 2 に記載の発明は、請求項 1 に記載の配電函支持具において、前記支柱傾斜手段は前記支持脚取付部に設けられ、前記 1 本の支持脚の前記傾斜角度を前記第 1 の傾斜角度より大きくした第 2 の傾斜角度で傾斜させた第 2 の開脚位置に変位させるものであることを要旨とする。

【0011】

請求項 3 に記載の発明は、請求項 2 に記載の配電函支持具において、前記支持脚取付部の全てに前記支柱傾斜手段が設けられ、全ての前記支持脚が前記第 2 の開脚位置に変位可能に形成されていることを要旨とする。

【0012】

請求項 4 に記載の発明は、請求項 2 又は請求項 3 に記載の配電函支持具において、前記第 2 の開脚位置は、前記第 2 の傾斜角度が略 90 度となる位置であることを要旨とする。

請求項 5 に記載の発明は、請求項 2 ～請求項 4 のうちいずれか一項に記載の配電函支持具において、前記支持脚は、該支持脚の上部側が前記支持脚取付部に形成されたガイド溝内で回動可能に支持されており、前記支柱傾斜手段は、前記ガイド溝の上部内側面に形成され前記第 2 の開脚位置にある前記支持脚の上側面が当接することで該支持脚の回動を規制する当接部と、前記当接部に当接した支持脚を前記第 2 の開脚位置まで回動させる位置に前記支軸を支持可能とするため前記支持脚取付部に形成された長孔と、からなることを要旨とする。

【0013】

請求項 6 に記載の発明は、請求項 1 ～請求項 5 のうちいずれか一項に記載の配電函支持具において、前記基部には前記支柱が貫通可能な貫通孔が形成されていることを要旨とする。

【0014】

請求項 7 に記載の発明は、配電函が側方に取り付けられる支柱と、該支柱の下部に取着された基部と、前記支柱を支持するために、前記基部に設けられた 3 つの支持脚取付部それぞれに支軸によって回動可能に支持された 3 本の支持脚と、を備えた配電函支持具を用いた配電函の支持構造であって、前記支柱を 3 本の支持脚のうちの 1 本の支持脚寄りに傾斜させて支持するとともに、傾斜した支柱に対し、前記 1 本の支持脚と反対側に前記配電函が位置することを要旨とする。

【発明の効果】

【0015】

本発明によれば、配電函支持具を、設置スペースを十分に確保することなく設置することができるとともに、配電函支持具の設置及び設置位置の変更を容易に行うことができる。

【図面の簡単な説明】

【0016】

【図 1】実施形態の配電函支持具に配電函を取り付けた状態を示す斜視図。

【図 2】実施形態の配電函支持具を示す斜視図。

【図 3】（a）及び（b）は基部を示す拡大斜視図。

【図 4】実施形態の配電函支持具に配電函を取り付けた状態を示す斜視図。

10

20

30

40

50

【図 5】支持脚を第 2 の開脚位置及び未開脚位置に位置させた状態を示す斜視図。

【発明を実施するための形態】

【0017】

以下、本発明を具体化した一実施形態を図 1～図 5 にしたがって説明する。

図 1 及び図 2 に示すように、配電函支持具 11 は、基部 12 に回動可能に支持された 3 本の支持脚 20 と、基部 12 に下部が取着された支柱 30 とから形成されている。

【0018】

基部 12 には、外側方に向けて延びる支持脚取付部 13 が 3 箇所形成されている。図 3 (a) 及び (b) に示すように、各支持脚取付部 13 は、対向配置された一对の取付片 14 と、両取付片 14 間の上部開口を閉塞する閉塞片 15 とから形成されている。そして、一对の取付片 14 の内面と閉塞片 15 の内面とからガイド溝 16 が形成されている。また、閉塞片 15 の先端面（下端面）は、支持脚 20 の上側面が当接することで支持脚 20 の回動を規制する当接部 15a となっている。

【0019】

一对の取付片 14 のうち一方の取付片 14 には、第 1 長孔 14a が上下方向へ延びるように取付片 14 を貫通して形成されている。他方の取付片 14 には、第 1 長孔 14a と対向する位置に第 2 長孔 14b が形成されている。また、他方の取付片 14 の外面において、第 2 長孔 14b の周囲には略円環状をなす膨出部 14c が外方へ向けて膨出するように形成されている。この膨出部 14c において、第 2 長孔 14b の上部寄りには正面視六角形状の第 1 位置決め孔 14d が形成されるとともに、第 2 長孔 14b の下部寄りには正面視六角形状の第 2 位置決め孔 14e が形成されている。第 1 位置決め孔 14d と第 2 位置決め孔 14e は上下方向に連設されている。

【0020】

そして、各ガイド溝 16 それぞれには支持脚 20 の上端部が挿入されている。さらに、各支持脚取付部 13 には、第 1 長孔 14a からガイド溝 16 内に支軸たるボルト 17 が挿入されるとともに、このボルト 17 の軸部 17a は支持脚 20 の上部を貫通して第 2 長孔 14b に挿通されている。第 2 長孔 14b に挿通された軸部 17a に対しナット 18 を螺合することにより、支持脚 20 は、ボルト 17 により支持脚取付部 13 に対して回動可能に支持されている。支持脚 20 が回動する際、支持脚 20 の両側面が対向する各取付片 14 の内面によってガイドされるようになっている。なお、ナット 18 は、第 1 位置決め孔 14d 又は第 2 位置決め孔 14e 内に収容され、それら第 1 位置決め孔 14d 又は第 2 位置決め孔 14e によって回転、及び第 1 長孔 14a 及び第 2 長孔 14b の長さ方向への移動が防止されるようになっている。

【0021】

図 1～図 3 に示すように、基部 12 には、貫通孔 12a が上下方向に貫通形成されている。また、基部 12 には、貫通孔 12a に向けて螺入又は螺退可能な固定部材 19 が取着されている。そして、貫通孔 12a には支柱 30 が挿通されている。支柱 30 には、支柱 30 を径方向に貫通する固定孔 30a が、支柱 30 の軸線 L の延びる方向に沿って複数形成されるとともに、この固定孔 30a を用いて支柱 30 に配電函 B が固定されるようになっている（図 1 参照）。また、固定孔 30a に対し固定部材 19 の先端を挿入することにより、支柱 30 が基部 12 に取着（固定）されるとともに立設されるようになっている。支柱 30 が基部 12 に取着された状態において、第 1 長孔 14a 及び第 2 長孔 14b は、支柱 30 の軸線 L 方向（上下方向）に沿って延びている。

【0022】

図 3 (a) 及び (b) に示すように、3 箇所の支持脚取付部 13 それぞれにおいて、ナット 18 を第 1 位置決め孔 14d で位置決めするとともに、ボルト 17 を第 1 長孔 14a 及び第 2 長孔 14b の長さ方向における上部側で固定し、支持脚 20 の上側面を当接部 15a に当接させたときの支持脚 20 の位置を、第 1 の開脚位置 K1 とする。図 1 に示すように、この第 1 の開脚位置 K1 では、支柱 30 の軸線 L と各支持脚 20 の軸線 L1 との間に形成される鋭角側の傾斜角度は第 1 の傾斜角度 $\theta 1$ となっている。そして、図 2 に示す

ように、全ての支持脚 20 が第 1 の開脚位置 K 1 に位置し、支柱 30 の軸線 L と各支持脚 20 の軸線 L 1 との間の傾斜角度が全て第 1 の傾斜角度 $\theta 1$ になると、支柱 30 は鉛直に延びるように支持される。なお、図 1 と図 2 では、図示の都合上、第 1 の傾斜角度 $\theta 1$ が若干異なるが、実際は第 1 の傾斜角度 $\theta 1$ は同じになっている。

【0023】

また、図 4 に示すように、3 箇所の支持脚取付部 13 のうち 1 箇所の支持脚取付部 13 において、ナット 18 を第 2 位置決め孔 14 e で位置決めするとともに、ボルト 17 を第 1 長孔 14 a 及び第 2 長孔 14 b の長さ方向における下部側で固定し、1 本の支持脚 20 の上側面を当接部 15 a に当接させたときの位置を、第 2 の開脚位置 K 2 とする。この第 2 の開脚位置 K 2 では、支柱 30 の軸線 L と第 2 の開脚位置 K 2 にある支持脚 20 の軸線 L 1 との間に形成される鋭角側の傾斜角度は第 2 の傾斜角度 $\theta 2$ となっている。この第 2 の傾斜角度 $\theta 2$ は、第 1 の傾斜角度 $\theta 1$ より大きくなっていると同時に、略 90 度になっている。

10

【0024】

そして、1 本の支持脚 20 のみが、支柱 30 の軸線 L との間に形成される鋭角側の傾斜角度が第 2 の傾斜角度 $\theta 2$ (略 90 度) になるとともに、その他の 2 本の支持脚 20 が第 1 の傾斜角度 $\theta 1$ になったとき、支柱 30 は、第 2 の開脚位置 K 2 にある支持脚 20 寄りに傾斜した状態で支持される。

【0025】

さらに、図 5 に示すように、3 箇所の支持脚取付部 13 それぞれにおいて、3 本の支持脚 20 それぞれを第 2 の開脚位置 K 2 に位置させると、各支持脚 20 の下側面のほとんどを地面に当接させた状態で支柱 30 を鉛直に支持することができる。また、図 5 の 2 点鎖線に示すように、3 箇所の支持脚取付部 13 それぞれにおいて、ナット 18 を第 1 位置決め孔 14 d 又は第 2 位置決め孔 14 e で位置決めするとともに、ボルト 17 を第 1 長孔 14 a 及び第 2 長孔 14 b の上部又は下部に固定した状態で、各支持脚 20 を軸線 L 1 が支柱 30 の軸線 L に沿って延びるように位置させる。この位置では、各支持脚 20 が支柱 30 の軸線 L に沿って延びる未開脚位置 K 3 にある。

20

【0026】

よって、配電函支持具 11 において、全ての支持脚 20 は、第 1 の開脚位置 K 1 と、第 2 の開脚位置 K 2 と、未開脚位置 K 3 の 3 位置を取り得るようになっている。また、配電函支持具 11 は、3 本の支持脚 20 のうち 1 本の支持脚 20 を、第 2 の開脚位置 K 2 を取らせて支柱 30 を傾斜させるための支柱傾斜手段を備えている。本実施形態において、支柱傾斜手段は全ての支持脚取付部 13 に設けられている。そして、支柱傾斜手段は、ガイド溝 16 の上部内側面に形成され第 2 の開脚位置 K 2 にある支持脚 20 の上側面が当接することで支持脚 20 の回動を規制する当接部 15 a と、当接部 15 a に当接した支持脚 20 を第 2 の開脚位置 K 2 まで回動させる位置にボルト 17 を支持可能とする第 1 長孔 14 a 及び第 2 長孔 14 b とからなる。

30

【0027】

次に、配電函支持具 11 を用いて配電函 B を工事現場に設置する方法について説明する。なお、配電函支持具 11 において全ての支持脚 20 は未開脚位置 K 3 に位置しているものとする。また、基部 12 は支柱 30 の下端部に取着され、この取着状態では支柱 30 の下端面が基部 12 の下端から突出していない。

40

【0028】

まず、3 箇所の支持脚取付部 13 のうち 2 箇所の支持脚取付部 13 において、図 3 (a) 及び (b) に示すように、ナット 18 を第 1 位置決め孔 14 d で位置決めするとともに、ボルト 17 を第 1 長孔 14 a 及び第 2 長孔 14 b の上部に固定し、支持脚 20 の上側面を当接部 15 a に当接させて、2 本の支持脚 20 を第 1 の開脚位置 K 1 に位置させる。

【0029】

次に、図 4 に示すように、残りの 1 箇所の支持脚取付部 13 において、ナット 18 を第 2 位置決め孔 14 e で位置決めするとともに、ボルト 17 を第 1 長孔 14 a 及び第 2 長孔

50

14bの長さ方向における下部側で固定し、支持脚20の上側面を当接部15aに当接させて、1本の支持脚20を第2の開脚位置K2に位置させる。すると、配電函支持具11の重心は、第2の開脚位置K2にある支持脚20側に移動するとともに、支柱30は、第2の開脚位置K2にある支持脚20寄りに傾斜した状態で支持される。そして、支柱30において、第2の開脚位置K2にある支持脚20に向けた面と反対側の面に配電函Bを取り付けると、配電函Bが配電函支持具11に支持されるとともに、配電函Bが配電函支持具11を用いて工事現場に設置される。

【0030】

上記実施形態によれば、以下のような効果を得ることができる。

(1) 配電函支持具11は、3本の支持脚20のうち1本の支持脚20を第2の開脚位置K2に位置させることで、支柱30を第2の開脚位置K2にある支持脚20寄りに傾斜させて支持させ、配電函支持具11の重心を第2の開脚位置K2にある支持脚20側に移動させることができる。そして、傾斜した支柱30において、第2の開脚位置K2にある支持脚20側と反対側の側面に配電函Bが取り付けられる。このため、配電函支持具11の重心を移動させることによって、配電函Bの重みによって配電函支持具11が倒れることなく配電函Bを支持することができる。

【0031】

この配電函支持具11は、3本の支持脚20の上端部が基部12で支持され、この基部12に支持されたボルト17を回動中心として開脚するとともに、その基部12に1本の支柱30が固定されている。このため、背景技術の折り畳みスタンドのように、一对の脚全体が互いに離間し、しかも、配電函を一对の脚に跨って支持する場合と異なり、本実施形態の配電函支持具11は、折り畳みスタンドに比べて設置スペースを小さくすることができ、設置スペースを十分に確保しなくても設置することができる。また、その他に、配電函の重みで配電函支持具11が倒れることを防止するため、例えば、広い支持板を用いて支持具を倒れないようにする場合と比べて配電函支持具11の設置スペースを小さくすることができる。

【0032】

また、配電函支持具11は、3本の支持脚20によって支柱30を支持し、立設させているため、支柱30を立設させるために、支柱30を地中に埋設する必要がなく、配電函支持具11の設置、及び設置位置の変更を容易に行うことができる。

【0033】

(2) 全ての支持脚取付部13に第1長孔14a、第2長孔14b、及び当接部15aが形成されており、全ての支持脚20が第1の開脚位置K1及び第2の開脚位置K2を取り得る。このため、全ての支持脚20を第2の開脚位置K2に位置させ、支持脚20を支柱30に対し略90度で傾斜させると、全ての支持脚20の下側面のほとんどを地面に当接させることができ、地面と支柱30との間に作業員の足が係止してしまう隙間ができることを防止することができる。

【0034】

(3) 支持脚取付部13には、当接部15aが形成されている。このため、支持脚20を第1の開脚位置K1又は第2の開脚位置K2に位置させたとき、支持脚20の上側面が当接部15aに当接することにより、支持脚20が第1の開脚位置K1又は第2の開脚位置K2からさらに開脚してしまうことを防止することができ、各開脚位置K1、K2に支持脚20を位置決めすることができる。

【0035】

(4) 当接部15aは、支持脚20の第1の開脚位置K1からの回動規制と、支持脚20の第2の開脚位置K2からの回動規制とを行う。このため、例えば、支持脚20の回動規制のために、第1の開脚位置K1及び第2の開脚位置K2それぞれに回動規制部材を設ける場合と比較して配電函支持具11の部品点数を減らすことができる。

【0036】

(5) 基部12には支柱30が貫通可能な貫通孔12aが形成されている。このため、

10

20

30

40

50

支柱 30 の下部側を貫通孔 12 a を貫通させ、支柱 30 の下端を地面に接地させて使用する場合には、3 本の支持脚 20 の下端と、1 本の支柱 30 の下端の 4 箇所が接地して配電函支持具 11 を安定させることができる。

【0037】

(6) 配電函支持具 11 は、3 本の支持脚 20 で支柱 30 及び配電函 B を支持するため、配電函支持具 11 がたつかに安定した状態で支柱 30 を支持することができる。

(7) 3 本の支持脚 20 全てが第 1 の開脚位置 K 1 と第 2 の開脚位置 K 2 を取り得る。このため、例えば、配電函支持具 11 の接地面が凸凹になっていても、各支持脚 20 の開脚位置を適宜調節することにより、配電函支持具 11 を安定した状態に設置することができる。

10

【0038】

(8) 取付片 14 には膨出部 14 c が形成されるとともに、膨出部 14 c にはナット 18 の回転を規制するとともに、第 1 長孔 14 a 及び第 2 長孔 14 b の長さ方向へのナット 18 の移動を防止する第 1 位置決め孔 14 d 及び第 2 位置決め孔 14 e が形成されている。そして、ナット 18 を第 1 位置決め孔 14 d 又は第 2 位置決め孔 14 e に挿入した状態でボルト 17 とナット 18 を螺合させると、ボルト 17 が第 1 長孔 14 a から第 2 長孔 14 b、又は第 2 長孔 14 b から第 1 長孔 14 a へ移動することが防止され、支持脚 20 を第 1 の開脚位置 K 1 又は第 2 の開脚位置 K 2 に位置決めすることができる。

【0039】

なお、上記実施形態は以下のように変更してもよい。

20

○ 3 箇所の支持脚取付部 13 のうち 1 箇所だけに支柱傾斜手段を設け、3 本の支持脚 20 のうち 1 本だけ第 1 の開脚位置 K 1 と第 2 の開脚位置 K 2 を取り得るように形成し、残りの 2 本は第 1 の開脚位置 K 1 と未開脚位置 K 3 を取り得るように形成されていてもよい。

【0040】

○ 基部 12 に貫通孔 12 a を形成せず、支柱 30 の下端を支持可能とする挿入穴を形成し、支柱 30 が基部 12 を貫通できない構成であってもよい。

○ 支持脚 20 を軸線 L 1 に沿って伸縮可能な構成としてもよい。そして、3 本の支持脚 20 のうち、2 本の支持脚 20 を第 1 の開脚位置 K 1 に位置させるとともに、残りの 1 本の支持脚 20 を他の支持脚 20 より短くし、短くした支持脚 20 寄りに支柱 30 を傾斜

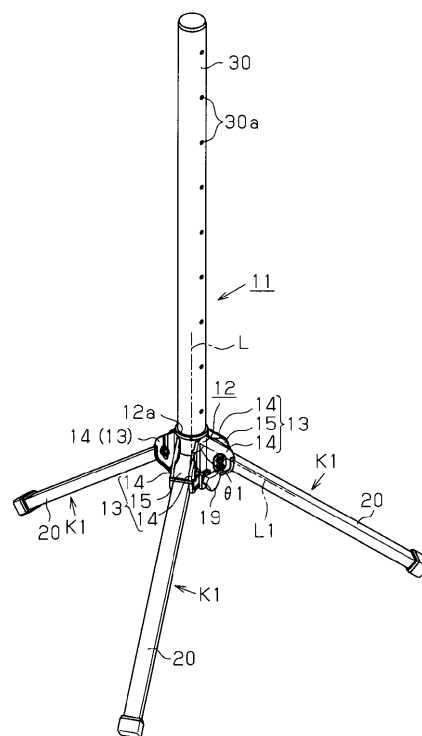
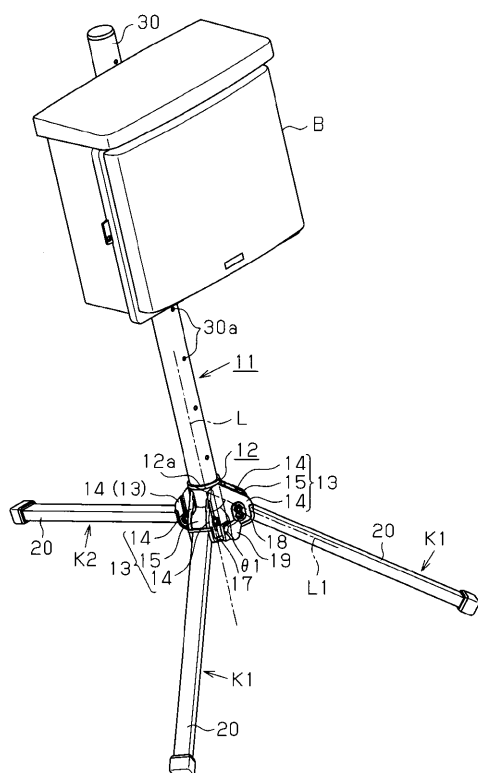
30

【符号の説明】

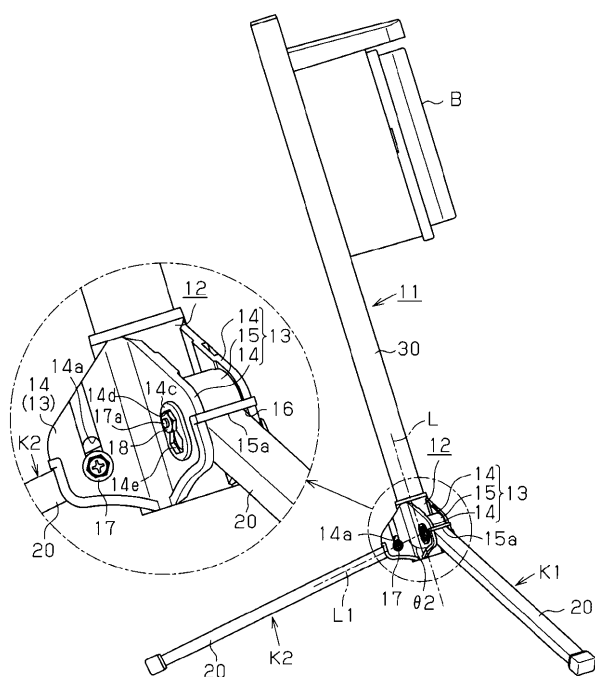
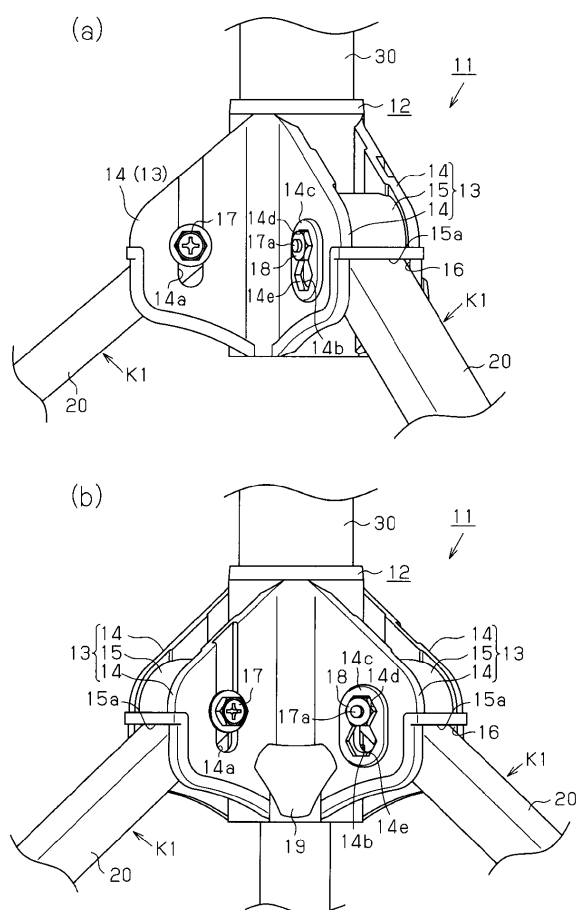
【0041】

B…配電函、K 1…第 1 の開脚位置、K 2…第 2 の開脚位置、K 3…未開脚位置、L…支柱の軸線、L 1…支持脚の軸線、 $\theta 1$ …第 1 の傾斜角度、 $\theta 2$ …第 2 の傾斜角度、11…配電函支持具、12…基部、12 a…貫通孔、13…支持脚取付部、14 a…支柱傾斜手段としての第 1 長孔、14 b…支柱傾斜手段としての第 2 長孔、15 a…支柱傾斜手段としての当接部、16…ガイド溝、17…支軸としてのボルト、20…支持脚、30…支柱。

【図 2】



【図 4】



【図 5】

